

# ヤリオ便り

## 一月号

- 2022 -



謹賀新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、大変お世話様になり誠にありがとうございました。

何しろ今年の令和四年は、三六年目の寅年最強の年回りのようですね。年女の私としては、本当かな？などと新年から少々考えてみました。

若い頃から、大器晩成タイプと言われてきたので病気や仕事の苦勞、諸々あっても今は大変でもきつと大丈夫！私は大器晩成のはずだからと、落ち込むことはなかった訳ですが、

占いを良い事だけを単純に信じてきたお陰様か、鈍感力か？ここからが問題です。

一九五〇年生まれの寅年としては今年七二才ですから、私の大器晩成はいつたい、いつから？という謎問題を、そもそも今頃考えているのかなとは思いますが、せつかくなので「大器晩成」を調べてみると、元々は「大きな器は完成に時間がかかる」事から来ている言葉で、大人物となる

人物は平均より遅くなって大成するという意味で使われ、誰もが晩年必ず大器になるわけではない。さすがに薄々は分かっていたはいましたが、つまり大器晩成するのはあくまでコツコツ頑張ってきた人で

「大器になるまで頑張る」のが前提であって成果をお金や地位、名誉としてははいない。

見方を変えれば精神が成熟し柔軟に達観出来る許す力がある人格者が「器が大きい人」でありその人なりの大きな幸福感を得ることが出来るのかもしれない。

例えるのにはどうかと思いますが、進化論のダーウインが「種の起源」をまとめたのは四九歳、正確な日本地図を残した伊能忠敬は五六歳から測量を始め、七四歳で亡くなるまで一七年間測量を

続けました。やり続けた人が「大器晩成」であって続けなければ、まあそれなりの晩成という事で、何歳から？というのは愚問だったようです。

やりたい事を、苦勞を苦勞と思わず努力を続けて相応しい花が開くのでしよう。歳を重ねて、出来ない事や不自由なことが増えてもそんな自分の不格好さを笑えています。年をとるとは

生きているだけで素晴らしいと理解が深まり、限られた時間を味わい愛おしく思いながら感謝を込めて皆様のご健勝を心よりお祈りして年の始めのご挨拶を申し上げます。

敬具

令和四年 元旦

株式会社セリオ

代表取締役 松本幸子

